

今回、私がプレゼンテーションをさせていただく内容は
特殊詐欺防止企画、特殊詐欺防止アニメーション制作です。

こちらの企画は、大阪府・大阪府警 大阪府安全なまちづくり推進会議の皆様から依頼を受けました。
そして、このアニメを制作するにあたり、主にアニメーション制作コースが担当いたしました。
他にも、アニメスタッフコースやアニメ声優コースの方にも協力いただきました。

ここから、大阪府・大阪府警 大阪府安全なまちづくり推進会議 様のお名前を、大阪府警 様と省略させていただきます。

今回、依頼を受けました特殊詐欺ですが、特殊詐欺の中でもいくつかの種類があります。その種類の中から今回は4つの事案を、アニメーション制作させて頂くことになりました。

1つ目は「オレオレ詐欺」。2つ目は「架空請求詐欺」。3つ目は「受け子詐欺」。4つ目は「キャッシュカード詐欺」。この4つの事案の中で、私が担当させていただいたのは、1つ目の「オレオレ詐欺」です。

制作期間は2019年7月から2020年1月です。この期間の中で各工程の進み具合を管理し、作品を完成へと導くために、制作スケジュールを組みました。卒業制作も同時に制作しながらの作業でしたので、かなりタイトなスケジュールになってしまいました。

(ここで放送予定日をいうのか?)

特殊詐欺の中の「オレオレ詐欺」ですが、大阪府警の方から提案されました内容は、

「おばあちゃんが詐欺の被害にあい、家族で守ることが必要だと気づき、詐欺を防止していく」といった内容でした。

この内容を元に制作する上で、作品に絶対必要なキーワードをお伺いしたところ、「示談金」「被害金額」「オレオレ詐欺」の3つでした。

他にも、大阪府警の方からの要望がありました。

まずは放送時間。今回、制作するアニメの時間尺は1作品全体で15秒となっています。

次に映像目的。これは「オレオレ詐欺」を防止するためです。

次に作品の雰囲気。こちらは AC ジャパンのような感じで作ってほしいと依頼されました、どちらかと言えばドラマ CM のような感じです。

最後に制作する上での注意点。こちらは今回アニメを制作する上で1番の重要項目なのですが、バリアフリーを考えて制作することです。聴覚の不自由な方のために、全部のセリフに字幕をつける。色覚の不自由な人のために、キャラクターや背景の色を調節するなど。バリアフリーに関しましては、大阪府

警の方とも念入りに確認しました。

以上を踏まえた上で、作品制作の基礎となる絵コンテを制作していくのですが、

15秒30秒のアニメーションCMは、一体どのように作ればいいのか？

まずはそこから調べていこうと考えました。

講師の先生方にお聞きしてみたり、インターネットなどで調べてみたりしました。その結果、2つの特徴を見つけ出すことができました。

1つ目は、会話ではなく1人のキャラクターによる語りです。

15秒や30秒の短い時間で、2人以上のキャラクターによる会話を、始まりから終わりまで成立させること困難だからではないかと考えられます。聞き手に会話の内容が伝わりづらく、内容の薄い会話になってしまうからではないでしょうか？

だからこそ、1人のキャラクターがCMの内容を語ることにより、対面で話を聞いているようになり、聞き取りやすく、よりメッセージ性が伝わるのだと思います。

2つ目は、BGMによる作品の雰囲気の上げです。

今、世の中に出ているCMの中で、BGMが無く、セリフだけのCMなんてあまり観ないと思います。それはなぜなのか、つまり、BGM無しで音声だけのCMだと、セリフは聞き取りやすくはなりますが、短い時間だと、どうしても感情移入するのは難しくなってくるからだと思われれます。そうなってくると、聞き手の印象にも残らなくなってしまいます。

だからこそ、作品自体にBGMを入れることにより、作品の雰囲気を作るのではないのでしょうか。

BGMを使うことにより、セリフをより際立たせるができ、短い時間の中でも印象に残り、感情移入ができるのだと思います。

以上を踏まえた上で、私達の班は作品制作をスタートしました。

まずは企画書を元に、絵コンテを作り、キャラクターを作りました。その段階で、1回、大阪府警の皆様にご覧いただき、ご意見をいただくことになりました。

もともと頂いていた企画書の方では、キャラクター2人による会話のセリフしかありませんでした。そこで、私は特徴2つを踏まえてプレゼン資料を作り、大阪府警の皆様にご提案をさせていただきました。その際に実際、使用しましたプレゼン資料がこちらになります。

私が提案したのは「語りと会話を両方使う」ということです。

実際、声優さんに音声頂くのは、提案した語りのセリフだけをいただきます。

目の見えない方は、画面が見えませんが語りのセリフと BGM が聞こえてきます。

耳の聞こえない方は、画面に字幕で出てくるキャラクターのセリフを読んでいただきます。

何も障害がない方は、2つの見方で観ていただけます。

そのような提案をさせていただいたのですが、大阪府警の皆様からは「とても良いです」との、お褒めのお言葉を頂き、採用させていただく流れになりました。

他にもこの作品を作る上で、ご協力していただいたコースがあります。

それは、アニメ声優コース、アニメスタッフコースの方々です。

私達アニメーション制作コースはアニメ映像を作ることは出来ませんが、収録などの音響関係はまったく勉強していませんので、専門で勉強しているコースの方に協力をしていただきました。

アニメ声優コースの方には、キャラクターの語りの声をいただき。

アニメスタッフコースの方には音響とマネージメントの方を行っていただきました。

そして無事に、音声を収録することができ、とても安心しました。

そして最後に完成したアニメ映像と音声と BGM を、1つに合体した完成映像がこちらになります。

私は、この企画を通して沢山のことを学びました。

主にアニメーション制作コースでは、みんなで考えたオリジナルの作品を進級制作や卒業制作などで、作ってきました。ですので、今回のような、シナリオがあって、ストーリーがあり、企業の方の作りたい作品を私達が制作するというのは、とても新鮮で大変でした。企業側が何を求めているのか、その範囲の中でどこまでオリジナルを出していくのか、何度も案を練り直しました。

その上で、この作品は公共のモニターで流れることになっているのですが、観てくださる方の気持ちを考え、さらにバリアフリーを考えた上で制作するのは、新たな挑戦で、制作していて「自分がやっていることが本当に合っているのか」ととても不安になることもありました。

ですが、講師の先生方や同級生のみんなに何度も相談かさね、私達の作品に持っていた自信を確信に変えることができました。この経験は、今後アニメーション業界で仕事するにあたりとても良い経験になったと思います。

そして私はこの経験をへた上で、今年の4月からアニメーション業界で仕事をします。

私は、株式会社スタジオヴォルンに制作進行として就職します。スタジオヴォルンは「君の臍臓を食べたい」や「うしおととら」などを手がけたスタジオです。大手ほどの規模ではありませんが、自分の力を信じてくださり採用してくださったので、粉骨砕身、頑張りたいと思います。

私には夢があります。

アニメを観てくださった方に「観てよかった」と思っていただけのような作品を届けることです。

私は、この夢を叶えるために頑張りたいと思います。

最後に 今後ですが、2月ごろに大阪府警の方から感謝状贈呈がございます。

そして、3月に今回、制作いたしました作品の上映がございます。

放送場所ですが、阪急大阪梅田駅ビックマン、JR大阪駅構内 約30ヶ所、

JR大阪駅御堂筋口 大型サイネージモニターなど、大阪駅を中心に数多くの場所にて放送されます。

3月に、大阪駅に来る機会がございましたら、是非、広告モニターを観ていただけると幸いです。

以上で私のプレゼンテーションを終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。